

日本母子ケア研究会 第14回学術・実践報告会のご案内

## 『長期的な母乳育児支援』

私たち日本母子ケア研究会では、「ラクで楽しい母乳育児」をめざし、様々な視点から母乳育児支援について探求しています。

本来人間は、自然妊娠・出産・母乳育児・自然卒乳を繰り返してきました。第二次世界大戦後、人工乳育児が広まるにつれ「母乳は1歳まで」という考え方が、国や医療者からも示されるようになりました。

2002年母子健康手帳から「1歳離乳完了」や「断乳」という言葉が削除され、虐待防止の観点からも母乳育児がすすめられ、自然卒乳が受け入れられるようになりました。しかし、今日でも「母乳は1歳まで」という考え方は根強く残っており、現場の医療者や母親達は混乱しています。

今回は、霊長類の子育てについて研究をされている京都大学の久世濃子先生にご講演頂き、霊長類であるヒトとしての母乳育児の在り方を学び直す機会にしたいと思います。基調講演では、長期授乳のメリットを母と子、それぞれの側面から分かりやすくお話しさせていただきます。またシンポジウムでは、長期的な母乳育児支援をする中で、出会う問題について事例報告して頂きます。是非ご参加ください。

日本母子ケア研究会会長 伊東厚子

日時	平成25年6月23日(日)AM10:00～	AM 9:40～ 開場・受付 AM10:00～ 開会
会場	横浜市桜木町 はまぎんホール ヴィアマーレ	
対象	看護師・保健師・助産師等医療従事者	
参加費	<b>事前申込【6/14日(金)まで】 ¥10,000(年会費込)</b> <b>※当日申込 ¥12,000(年会費込)</b> 6/15日(土)以降の申込については当日扱いとなります。 詳細は裏面(P,4)「申し込み用紙」をご参照ください。	



